

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4370900435		
法人名	医療法人社団 福本会		
事業所名	グループ ホーム 和樂		
所在地	熊本県天草市牛深町1641番地4		
自己評価作成日	平成23年11月25日	評価結果市町村受理日	平成24年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaibosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaibosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本3丁目13-12-205
訪問調査日	平成23年12月16日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設は、皆様が長年生活されてきた町の中心に位置しており、四季折々の緑豊かな中庭を挟み壱番館、貳番館があります。庭には、家族会のご意見をいただき移植されたシンボルツリーの桜の木があり、春はそれぞれのリビングから桜の花を楽しむことができます。また、畑では、野菜を育てたり、お花を育てたり、穏やかな時間を過ごす素敵な場所になっています。入居者様お一人お一人を尊重し、これまで生活されてきたスタイルや習慣を継続し地域に根ざした、和やかで楽しい暮らしを支援しています。季節を通したさまざまな町の行事にも参加しています。春のハイヤ祭り、お花見、夏の素麺流しや秋祭りなど年間の行事をおしさまざまな季節の楽しみを支援しています医療面の連携においても永年地域で医療に取り組んできた母体病院があり、利用者様ご家族にも安心していただいております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームは開所以来、各ユニットが一軒の家として庭を囲みながら切磋琢磨、協力しながら共存し、母体医療機関との連携により入居者の今を支援している。運営推進会議で提案された大規模な庭の造成時に新たにスロープを設置し、高齢化した入居者や車椅子利用者も外気浴を兼ね日々自由に庭に出て自然を満喫している。中央の大桜は庭のシンボルとなり四季折々に姿を変え入居者の楽しみとなっている。入居者の歌で毎朝のスタートをきり進行や選曲も入居者自ら主導し、使いこなされた手作りの歌詞本は入居者の宝物であり大切にされている。地域資源を活用しながら人々との交流の機会を支援し、母体医師や栄養士、各担当者の助言や指導の元、入居者の健康面をバックアップしながらホームでの生活延長を全力で支え、笑顔溢れる日常となっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目に入るところに掲げてあり、和やかに楽しくの理念の基、その人らしい思いや、らしさが、地域資源をどのように活用し楽しみの支援ができるか集会等で意見を出し合い、実践につなげるよう共有している。	基本理念「ゆっくり。和やかに。楽しく」を具現化した3項目のサブ理念は職員が作り上げたものであり、入居者への関わりや地域との繋がりをより具体的にすることで実践への指標としながら、日々の話し合いや会議の中で検討し現在項目の見直しを進めている。	全職員が新たな目標に向けサブ理念の見直しに関わり、運営推進会議や家族会等で紹介する事でホームの取り組みや姿勢を更に理解してもらえるものと考えます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の散策を兼ねて、お知らせの手紙と一緒に訪ね話をしたり、近所を散歩して会話したり顔なじみになっている。	入居者は職員と共に運営推進会議の案内状を持って近隣の委員の元を直接訪れ、言葉を交わしながら参加を依頼したり、車イスの方へも散歩を兼ね甘味所でのおやつを支援し入居者も楽しみにされている。地域の祭り見学や社協主催の文化祭には毎回入居者の力作を出品し、音楽祭(法人)では歌や体操を発表し入居者の自信ともなっている。ボランティアでホームの庭掃除に定期的に来られる方や食材(米)の配達、知人の来訪も増えて来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を支える会のボランティアメンバーに参加している。認知症家族の会のアドバイザーとしても参加し、家族介護について相談や思いを伺う活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政の方や地域の方に参加してもらい、現状報告や研修会に参加した内容や報告を行い意見を聞いて地域に根ざしたサービスの活用などアドバイスや意見をもらい取り組んでいる。	2か月ごとの運営推進会議は定着しており行政や地域の代表者、家族が参加し入居者の様子や活動報告もトーク形式で紹介し、その都度参加者も意見や提案を出し合い一方通行に終わらない様な進捗を心がけている。文化祭への出品作(ひょうたん)も参加者の提案であり、庭のシンボルである桜の木の植樹も参加者の発案により入居者の目を楽しませている。家族や来訪者へ向け議事録を玄関に開示し共有を図っている。	地域代表者と交流するきっかけの機会であり職員もりん番で参加する事で推進会議に対する職員の意識向上に繋がる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政代表として地域支援センターの職員に運営推進会議に出席していただき、日頃の相談にも応じてもらい、行事にも参加してもらっている。	推進会議へ包括センターより毎回の参加があり相談事にも気軽に応じてもらう関係にある。管理者は書類提出等で役所を訪れ、認定調査時は担当職員と家族が立ち合い情報提供をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていないが、言葉による拘束など直接的拘束以外についても、日頃から話し合う場をもうけて意見交換を行っている。また、研修会や勉強会に参加し、職場で活かせるよう取り組んでいる。	母体の研修にはほとんどの職員が参加しており身体拘束による弊害を正しく理解している。管理者は言葉による拘束(スピーチロック)についても気がついた時にその都度職員に話をしている。日中の玄関もオープンであるが職員の人員体制によっては危険防止の為自動ドアを手動式にする等の対応を取っている。	外出傾向の強い入居者の家族へは報告し現状を伝えているが、ホームに関する全ての人が入居する場所であり、今後家族会の席等で全家族へ向け報告する事が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会に積極的に参加して話し合う機会をもうけており事業所内での虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県主催の研修会や勉強会に参加し学びを得ている。また、皆で共有して必要な方がいないか、話し合う場をもうけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分な時間を取り、条文についてひとつずつの説明を行い、質問や意見を伺い、十分にご理解をいただいた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しているが、日頃より心安く相談できるような雰囲気作りに努めている。また、運営推進会議・家族会で得た意見は和楽通信を通して公表しており、職員間でも意見を出し合いながら運営に反映している。	日頃の面会時や運営推進会議で家族の意見を吸い上げ、年2回の家族会はホーム行事を兼ね入居者同志、家族同志が和気あいあいと何でも言える雰囲気作りにも心がけ、意見の収集を図っている。ホーム便り、和楽通信では入居者自らが文書を書かれたり、七夕の短冊に書かれた思い等からも入居者の心の声をホーム運営に生かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員の集会を行い、意見交換を行う機会をもうけ運営に反映させている。	管理者は普段より職員と会話の機会をもち気づきノートや毎月の会議で意見や提案を把握しケアの向上や物品購入に繋げている。職員の観察から足の爪を痛めている入居者へ一旦は車椅子にしたものの歩行器に替え自立歩行により入居者の喜びに変えている。職員の提案により浴室へのストーブや体重計が新たに購入されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	問題や相談があればその都度話し合いの場をもうけ改善に努めている。また、年2回の人事考課をもちいて、努力した事や、意見・実績の評価を行いやりがいのある職場作りに反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会は、昼・夕2回の開催を行い、参加しやすいよう取り組んでいる。外部の研修についても希望があれば確保できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に所属しており、活動内容や研修勉強会など、意見交換を行い、互いの事業者の利点などを学び、交流を行っている。また、得た情報は職員で共有して職場に反映できるように話し合っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中で、繰り返される言葉や表情より、ご本人の意向を汲み取り、コミュニケーションを図りながら、安心して生活できる環境づくりを、しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様はもちろん、家族の方の思いに沿って、話し合う場を持ち、意見や要望を聞きながら、より良いサービス提供できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の不安なこと、必要とされていることを、家族の方に伝え、家族の方と共に状況確認し、その時の合ったサービス提供ができるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に声かけを行ったり、自主的に活動できる様な環境を作り、共に行うことで、思いを共感し、共に支え合う関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活や気付きの情報を報告し、家族の気持ちを組み取りながら、本人との絆を大切にできる様支援し、共に協力してより良い関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある商店への買い物へ同行し、知人との面会あれば、ゆっくりと話ができるよう支援し、併設であるディサービスとの交流会や地元の行事の見学に出かけたりと、人との関係が途切れないよう努めています。	家族の協力により行きつけの美容院を引き続き支援し、墓参や法要の一時帰宅も行われている。職員の知人であるカットボランティアの方とは入居者も馴染みの関係となっている。行きつけの商店での個別の買い物等も支援している。入居者の以前からの趣味や特技も又馴染みのものであり、包丁研ぎや、縫物、テーブル拭き等それぞれ得意とされる場を提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や好みを把握し、状況に応じて職員が間に入ったりしながら、コミュニケーションを図れる様支援しています。入居者の方同士で、個室を訪問し合われたり、お世話をしてくださるなど、共同生活を楽しみながら生活されています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族の方にお会いした際は、ご近所をお伺いしたり、入院されている方の所へ生活を共にされた入居者の方と面会に出かけています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話からや、家族の話から、希望や意向を把握し、自分らしい生活ができるよう支援しています。	入居者の何気ない言葉から外出支援に繋がったり安心されるよう自宅を訪問するなど日々のケアの中で思いを汲み取っている。又、常に心掛けていることは“思い込みをしない事”と管理者は語っている。普段ほとんど何も言われない方でも時には心にある思いを一気に吐き出される事を心に止め対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話からや、家族の方からの話を元に、これまでの暮らし方や、馴染みのあるものを把握することに努め、これまでの生活に近い状態で、過ごしていただけるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活スタイルを把握したうえで、無理のない範囲で、家事やレクリエーションなどの活動に参加してもらい、体調の良くない人は休息してもらおうなど、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気がきがあれば、その時に話し合い、定期的に職員全員で話し合い、アイデアを出し合いし、家族や主治医、管理栄養士の意見やアイデアを取り入れることにより、本人の現状に合ったプラン作成を行っている。	本人、家族の思いをプランに反映しながら担当職員や医師、母体栄養士からも専門的立場から助言をもらいプランを作成している。入居者の状態変化時や定期的見直しにより現状に即したプランとなっている。家族の来訪時にはプラン内容をわかり易く説明し了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変わったことや、気付いたことは、日々の記録に示し、カンファレンスやミーティングで、情報を共有し、話し合うことで、現状に合った、サービス提供が出来るように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの要望など聞いた上で、リハビリ等必要な方は母体のリハビリ室に行ったり、自室でのリハビリを毎日その時の状態に合わせて、柔軟な支援が出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会の方の中に地域代表の方が、毎月の行事など、教えてくださり、入居者の方が好きそうな行事には、声掛けをし、家族の方にも、協力してもらいながら、参加したり、出かけたりして楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診には母体の病院へ受診、検査に行っており、「いつもと違う」と感じた時すぐに、主治医に相談し指示をいただいている。	入居者・家族の希望に応じたかかりつけ医とし、殆んどが母体の協力医をかかりつけ医としている。定期受診をホームで支援し、専門医などは家族対応での受診としているが、ホームでも柔軟に対応し、家族との情報共有に努めている。受診表を作成し主治医への情報提供や指示・報告を記録し、入居者の健康管理に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違うと感じた時や、異常・変化がみられる時は、看護師に連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体の病院があるため、スムーズに入・退院ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	受診や健康管理の状況をお知らせし、日頃から本人や家族の意向をふまえ、話し合う機会を作っている。	重度化し医療中心となるとホームでの対応が難しく、医療機関と連携を取る事を入居時に説明している。入居者・家族の希望を踏まえホームでできる限りの支援に努めていく意向であり、ホームでの生活を望まれ一緒に食事を摂られる入居者を温かく支える職員の姿があった。	重度化に向けたホームの取り組み指針を明文化し、入居者・家族や職員間での共有とされる事が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は研修などに参加し、共有することで緊急時の対応が適切にできるよう、話し合いながら作成したマニュアルに沿って実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員を対象に年2回の消防非難訓練を実施、近隣の方にも参加してもらい夜間や昼間の想定など、火災以外の場合でも非難が必要」な場合、1次・2次非難場所を決めて置くなどの意見をもらい、協力を得ることができている。	消防署や地域住民の協力を得た避難訓練を実施し、避難場所についても一次避難場所や二次避難場所を確保し、家族に周知している。スプリンクラーの設置が完了し、壱番館にスロープを設置するなど設備面での充実や、日誌の中で火元確認を行っており、行政や地域と共に津波の訓練に参加し防災意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、関わる中で一人ひとり、言葉づかいに気をつけ対応している。本人の思いを尊重し、対応に努めている。	入居者への尊敬を理念の一項目に掲げ、馴れ合いの言葉かけに注意しプライバシーを損ねない対応に努めている。ホームだよりの写真掲載への配慮や重要書類の管理など個人情報情報の漏洩防止に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや表情など、感じとれるよう、コミュニケーションを図りながら、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムに合わせ、本を読んだり、話をしたり、それぞれ好きなことをされている、お出かけなど要望がある時もすぐに対応してその人らしい支援ができています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を聞きながら、その人らしいおしゃれができるよう支援している。(定期的にボランティア訪問にて散髪してもらったり、お化粧されたり)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切りの際は、皆さんテーブルを囲んで野菜の皮むきや、切ったりされ、食器の片づけも毎日のようにしていただきます。作業中も昔の話を職員に聞かせてくださり学ぶことも多い。	法人栄養士の作成した献立により、週三回は法人で調理され、四回をホームで調理し日曜日は独自の献立としている。入居者は買い物から準備、後片付けまでできる事に誇りを持ち、職員も入居者の間に入り介助や見守りで一緒に食事を摂っている。時には畑で育てた野菜が食卓に上ったり、手作りのおやつも楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて食材を刻んだり、ミキサーにかけたり、ムセのある方は、トロミをつけての提供をしている。水分量の少ない方には、好みの飲み物を提供したり、ゼリー状にしたりして工夫している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ・見守り・介助を行い歯磨き粉や歯間ブラシ・口腔内洗浄液など口臭の強い方に提供して清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し、トイレの場所が理解できない方は、迷われることなく場所が分かるよう誘導したり、リハビリパンツに失禁されていても、さりげなく交換できるよう支援している。	排泄パターンの把握で、時間やしぐさによりトイレに誘導している。プライバシーに配慮したさりげない誘導や、個々に合わせた排泄用品で失敗を減らし、夜間使用のポータブルは洗浄・消毒を心がけ気持ち良い自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多く含まれている野菜や果物をお茶やドリンクにして提供したり、水分補給が少ない方など申し送りして対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の好きな時間に入浴してもらっている。毎日入浴の準備をして、一人ひとりに声かけしている。	二種類の普通浴と機械浴の浴槽を備え、毎日準備をし、一人でゆっくり入られたり、大きめの浴槽に会話を楽しみながら二人で入られたりと個々の希望に合わせた支援である。入浴剤や柑橘類などを使用し、特別な拒否もなく楽しみ入浴支援に努めている。	町内の温泉施設を利用する案が出されており、実現に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分の好きな時間に休息されている。一人の方は不安からか、一人で自室での休息ができなくて、皆さんが休息されている時間も、スタッフという時間が安心されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医やナースから、説明をしっかりと聞き、飲み合わせの注意や副作用の説明をスタッフ全員に伝え、記録を見ることで理解できている。症状の変化があれば、ナースに連絡して確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族の方から、好きなことや情報を得ており、興味のあられることは、自ら参加されている。日常生活の中で、一人ひとりの表情から気分転換になるような声掛けを働きかけ日々楽しんでもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「生家や家に行きたい」と希望されれば、車で出かけて行ったりと希望される所へでかけている。隣近所の方と合った時は、時間が許す限り話をしてもらっている。	体調や天候に合わせ、近隣の散歩や買い物、中庭での外気浴を楽しんでいる。はいや祭りの見物や、生まれ育った地元の祭りや海を見に出かけたり、不穩時の自宅訪問で落ち着かれるなど、個々に合わせ家族の協力を得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができない方がほとんどなので、管理している。要望があれば、入居者の方と一緒に買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、本人が落ち着かれるまで、話をしてもらっている。手紙を書くことはできないので、スタッフが本人の言葉を代筆したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからは、中庭を眺め季節の花々を楽しむことができます。また、季節の花をリビングや玄関に飾り、入居者の方も楽しませている。日当たりも良く、窓際で日光浴をしたり、湿度調節も行っています。	中庭の大掛かりな改修でリビングから桜を楽しめ、高齢化やレベル低下もありホーム内での生活が多くなった入居者の楽しみとなっている。リビングや廊下には入居者の自慢の作品や季節の花が飾られ、102歳の入居者の先導で一緒に歌声が和やかに響き渡り、穏やかなホームの日常である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いで、お互いの居室を訪ねられ、話をされたり、一緒にベッドに寝転んだりして、寛がられています。リビング、ソファ集いの場となり、テレビを一緒に視聴されたり、洗濯たみされたりされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	若かし頃の家族写真や、来訪された時に一緒に撮った家族写真を、それぞれアレンジして、部屋に飾られ楽しまれている。趣味で集めた置物を大事にされている方もいます。	洗面台やベッド・タンスを備え付けた居室に、テレビや椅子などを持ち込み、家族の写真に供え物をされるなど、自分の部屋として使用されている。持ち込みも其々であり、殺風景にならないように職員のアイデアも活かされた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行困難な方も体調に合わせて、廊下の手すりを利用して、散歩されたりしています。レベル低下にて車椅子使用の方は、残存機能を生かしてもらい安全に生活されるよう一人ひとりの環境づくりに努めています。		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、目に入るところに掲げてあり和やかに楽しくの理念の基、その人の思いやらしさを地域資源をどのように活用し楽しみの支援ができるか集会等で意見を出し合い、実践につなげるよう共有しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の散策をかねてお知らせの手紙と一緒にたずね届けたり、近所のお店へ3時のおやつを食べに出かけたりしています。庭へ散歩に来られる方もいてボランティアで庭の掃除に訪ねてくださる方もあり交流も少しづつ増えています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を支える会のボランティアメンバーに参加しています。認知症家族の会のアドバイザーとしても参加し家族介護について相談や思いをうかがう活動をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政の方や地域の方に参加いただき現状報告や研修会に参加した内容や報告を行いご意見をうかがい地域に根ざしたサービスの活用などアドバイスや意見をいただき活用しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政代表として地域包括支援センターの職員に運営推進会議に出席していただきおり日頃の相談にも応じていただきイベント等にも出席いただくなどの協力を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていませんが。言葉による拘束など直接的拘束以外にも日頃から話し合う場を設け意見交換を行ってます。また、積極的に研修会や勉強会に参加する機会をもうけ職場に生かせるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会に積極的に参加して話し合う機会を設けています。また、ご家族や職員が気軽に相談できる雰囲気作りに努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県主催の研修会や勉強会に参加し学びを得ています。また、皆で共有して必要な方がいないか話し合いました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分な時間を取り条文についてひとつずつの説明を行い、質問や意見をうかがい、十分にご理解を頂いた上で契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置していますが、日頃より心安く相談できるような雰囲気作りにつとめています。また、運営推進会議、家族会で得た意見は公表しています。ご意見は今回の庭の改修につながり楽しみの支援として反映する事ができました。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員の集会を行い意見交換を行う機会をもうけ運営に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	問題や相談があればその都度話し合いの場をもうけ改善に努めています。また、年/2回の人事考課をもちいて努力した事や意見、実績の評価をおこないやりがいのある職場作りに反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会は昼、夕2回の開催をおこない参加しやすい用取り組んでいる。外部の研修についても希望があれば確保できるように努めています。資格習得においても積極的に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に所属しており、活動内容や研修勉強会など意見交換を行い互いの事業所の利点などを学び交流を行っています。また、得た情報は職員で共有して職場に反映できるよう話し合っています。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っている事や望む暮らしについての理解に努め思いに沿った暮らしができるよう十分な話し合いの場を持ちご意見要望等を職員で共有し気づいた事などは話し合い安心できる支援に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様、家族からこれまで過されてきたライフスタイルや習慣、望む暮らしや要望など十分に話をうかがい支援に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族から十分なお話をうかがい必要な支援の見極めに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長年行ってこられた季節の手仕事など、スタッフが教えていただく事も多く、一緒に楽しむことで自信や信頼を気づけるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報誌に一月の様子を報告書として添えお知らせしています。些細な事でも気になることは、電話連絡するなどお知らせし意見を頂いたり協力を得ています。また、家族交流会として一緒に調理をしていただき食事を楽しんでいただいたり参加していただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いき付けの美容室やお店へ出かけたり地域の散策やドライブなどの支援をしています。また、気軽に訪れられる雰囲気環境づくりに努め、知人来訪の際は、くつろいで過ごしていただけるよう配慮しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	高齢の方に代わり新聞を取りに行ったり、気の合う方向士でTVやお茶を楽しんだりされています。また、個々の性格や状況を把握しスタッフを交えたコミュニケーションを計るなどの対応をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてから後も御家族の来訪をうけ感謝や、励ましの言葉を頂き今後の励みとなったうれしい再会もありました。また、今後も認知症家族の会への参加を勧めたり相談を受けるなどの支援をしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の状況に合わせ日頃からの様子や会話からご本人の意向に添った支援が出来るよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境やライフスタイル経験されてきた事などや趣味や好きな場所などご本人のお話や家族から話をうかがったりして個々にあった支援ができるよう把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	思い思いに過ごしていただいておりますが、個性や好み、心身状況に応じた声かけを行い楽しみに繋がる活動の支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人家族を交えた話し合いをおこない主治医や管理栄養士から意見をいただいたりスタッフのアイデアや意見を反映できるよう配慮しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個別のファイルで管理し変化や新たな気づきがあれば記録し、申し送りや話し合いを用いて情報の共有をはかりより良いケアにつながるよう支援しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状況に応じ、リハビリや定期受診介助を行ったり往診や地域資源を活用したふくしタクシーの利用や出張美容などへの取り組みを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年の秋の音楽祭参加、文化展への出品は‘元気に来年も’と大きな希望となっています。また幼稚園児や婦人会の慰問など訪れていただき楽しみの支援につながっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院の受診や、夜間、緊急時における相談、往診など細やかな医療支援をおこなっています。また、歯科医往診治療など協力を得ています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が従事しており日々相談しながら健康管理を支援しています。気づきや変化、心配なことがあればすぐに母体の病院へ連絡協力を得る事ができます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ほとんどの利用者が母体病院を利用しておられ医師や関係者と連携が取れています。また、家族本人の意向に添えるように医師を交えた話し合いの場をもうけたりして支援に努めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	受診や健康管理の状況をお知らせして日頃からご本人や家族の意向をふまえ話し合う機会を作っています。必要であれば主治医を含めご本人家族、スタッフで話し合い連携した支援ができるよう情報を共有しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修において全職員を対象に緊急時対応、救急蘇生法を学び、日頃から緊急に備えてシミュレーションを行い緊急の場合に備えた学びを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員を対象に年2回の消防避難訓練を実施、近隣の方にも参加いただき、夜間や昼間の想定など、火災以外の場合でも非難が必要な場合1次、2次避難場所を決めて置く等の意見を頂き協力を得る事ができている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性の理解に努め、人格を尊重した対応や言葉掛けを行いその人らしさ、思いに沿った暮らしができるようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションに努め表情やしぐさから思いを汲み取り自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに配慮しペースに合ったケアをしています。外出や趣味活動などご本人の自信と満足につながる支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は、好みのものを選べるように支援しています。また、これまで利用してこられた美容室へでかけたり、出張していただくなどの支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材に触れお話をしながら、皮むきや、刻む等出来ることで参加していただき、味見や盛り付け等も自信や楽しみにつながっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立による食事提供をしています。健康状態に合わせ刻みやミキサー食、とろみ剤を使用しています。また、記録管理し現状を把握し個々に対応した支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりのタイミングに応じた声かけを行い、ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄のパターン、表情やしぐさなどのサインを職員間で共有しその方に応じた誘導を行っています。また、プライバシーに配慮しさりげない見守りを行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事摂取量や水分接種、排泄の管理を行っており個々の健康状態を把握しています。また、水分接種が困難な方はお茶ゼリーなどの工夫を行い、食後の庭散歩と一緒に同行するなどの支援をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日声かけを行い意向に沿えるよう支援しています。くつろいで入浴していただけるように一人用の浴槽、機械浴が設置してあります。スタッフと会話をしながら香りのよい入浴剤や季節の薬草なども楽しんでいただき喜んでいただいています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や体調にあわせた休息を取っていただいています。夕食後は、リラックスして過していただき照明の工夫をしています。寒い夜などは湯たんぽを喜んでいただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの職員が、処方箋と照らし合わせて確認をおこない、効能や用量を理解して服薬支援をしています。症状の変化や異常があれば母体病院と連携した支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の特技や趣味に応じた活動をとおして喜びや自信につながる支援をしています。一緒に調理をしたり、花や畑作りなど役割を持った活動やウッドデッキでの食事や外散歩外出などさまざまな楽しみの支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の方へのお知らせの手紙を一緒に訪ね届けて散歩をしたり、馴染みの店への買い物や自宅外出など状況に応じた外出支援をしています。また、中庭で日光浴やお茶を楽しんだり、お祭りやお花見など家族の支援を受けられるよう声かけをして協力していただいています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃は、預かり金として管理をしている方もありますが、馴染みの店への買い物支援をとおして好きなものを自分で選んだり、支払いをしていただいたり自信や楽しみにつながるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月/1回発行の情報誌には、御家族へ自筆にて一言の手紙を添えていただくように支援しています。また、年賀状や暑中見舞いなどの支援をして喜ばれています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関には、季節の花を飾っています。リビングには、皆さんで作られたカレンダーを掲示しています。また、リビングからは四季の緑を眺める事ができ、野菜の生育をみる事が出来ます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後ほっと一息、庭を眺めゆっくりと過ごされたり、ソファでは、横になりTVを楽しまれたり、ひとつのテーブルを囲み皆さんで談話されたりほのぼのとした場面が見られています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、家族の写真を飾られたり、可愛がられていたぬいぐるみを持ち込まれたり安心して過せる居室作りに家族の協力を得ています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、手すりが設置してあり自力歩行に役立っています。また、個々の分かる力やプライバシーに配慮した表札、誘導の矢印を用いたり工夫をしています。		